

27日 金曜

I サムエル



3:1 さて、少年サムエルはエリのもとの【主】に仕えていた。そのころ、【主】のことはまれにしかなく、幻も示されなかった。

3:2 その日、エリは自分のところで寝ていた。彼の目はかすんできて、見えなくなっていた。

3:3 神のともしびが消される前であり、サムエルは、神の箱が置かれている【主】の神殿で寝ていた。

3:4 【主】はサムエルを呼ばれた。彼は、「はい、ここにおります」と言って、

3:5 エリのところに走って行き、「はい、ここにおります。お呼びになりましたので」と言った。エリは「呼んでいない。帰って、寝なさい」と言った。それでサムエルは戻って寝た。

3:6 【主】はもう一度、サムエルを呼ばれた。サムエルは起きて、エリのところに行き、「はい、ここにおります。お呼びになりましたので」と言った。エリは「呼んでいない。わが子よ。帰って、寝なさい」と言った。

3:7 サムエルは、まだ【主】を知らなかった。まだ【主】のことは彼に示されていなかった。

3:8 【主】は三度目にサムエルを呼ばれた。彼は起きて、エリのところに行き、「はい、ここにおります。お呼びになりましたので」と言った。エリは、【主】が少年を呼んでおられるということを悟った。

3:9 それで、エリはサムエルに言った。「行って、寝なさい。主がおまえを呼ばれたら、『【主】よ、お話しください。しもべは聞いております』と言いなさい。」サムエルは行って、自分のところで寝た。

3:10 【主】が来て、そばに立ち、これまでと同じように、「サムエル、サムエル」と呼ばれた。サムエルは「お話しください。しもべは聞いております」と言った。

3:11 【主】はサムエルに言われた。「見よ、わたしはイスラエルに一つのことをしようとしている。だれでもそれを聞く者は、両耳が鳴る。

3:12 その日わたしは、エリの家についてわたしが語ったことすべてを、初めから終わりまでエリに実行する。

3:13 わたしは、彼の家を永遠にさばくと彼に告げる。それは息子たちが自らにのろいを招くようなことをしているのを知りながら、思いとどまらせなかった咎のためだ。

3:14 だから、わたしはエリの家について誓う。エリの家のだ咎は、いけにえによっても、穀物のささげ物によっても、永遠に赦されることはない。」

「主のことはまれにしかなく、幻も示されなかった。」とあります。時代は士師記の最後で、人々が自分勝手に生きていたのです。それでも主に従う者には、主のことは与えられます。主のともし火は消えていませんでした。主のあわれみによります。

サムエルは主に従順に仕えていました。それは主の箱の安置されているところであって、主とともに歩んでいたのです。私たちもこうありたいものです。

エリは霊的には鈍っていましたが、それでも主への敬虔な思いは変わりありませんでした。サムエルは主が自分に与えてくださった指導者を尊敬していましたから、その指導者によって主の声を聞くことができました。主の定められた権威や役割を尊重することは恵です。

しかし主はエリの指導力のなさと、その結果を明らかに示されました。主への敬虔とともに、次世代を育てたり兄弟姉妹を正しく導くことは、信仰者として大切なことです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

